

ふくしま 授産事業振興会だより

第25号

平成25年11月発行

(発行者)

福島県授産事業振興会
授産事業支援センター
<http://www.f-jusan.jp>

〒960-8012 福島市御山町8番30号(福島県保健衛生合同庁舎4階) TEL 024-563-1228 FAX 024-563-1234 E-mail: info@f-jusan.jp

会長就任にあたって



福島県授産事業振興会

会長 三浦 正一

平成25年度総会において会長に選任されましたNPO法人ひろせの三浦正一です。

今まで副会長として高村会長と一緒に行動してまいりましたが、いざ会長になってみま
すと高村前会長の積極的な行動力等すべてにおいて素晴らしいものがあり、安易に会長を
引き受けたことに不安でいっぱいですが、皆様のご協力を頂きながら円滑な運営に務めて

まいりたいと思いますのでご協力よろしくお願いいたします。

さて、福島県では今年4月から施行された「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達に関する法律」を実効に移すため、調達目標金額を設定した基本方針を策定いたしました。

この制度は、私たちの障がい者就労施設にとっては追い風になるものであります。

授産事業振興会は、障がいのある人たちの工賃向上を目的にして事業を推進しておりますが、この制度を追
い風に、授産事業振興会が県内6圏域に配置している震災復興支援員と各施設が連携を図り、調達目標の達成
に向けて全力で取り組んでいきたいと思ひます。

また、4名の経営相談員の方々には施設運営上の課題や事業方針等の相談に応じるなどして経営安定に支援
していただき、授産事業振興会の目的である障がいのある人達の工賃向上を目指していきたいと考えております。

まだまだ厳しい状況は続くと思ひますが、各施設の皆様とともに障がいのある人達の工賃向上を図るため
に頑張っていきたいと思ひます。

ごあいさつ



福島県保健福祉部障がい福祉課長 古山 幸一

福島県授産事業振興会の皆様には、障がい者就労施設製品の生産・販売支援並びに共同
受注の促進等に、ご尽力されておりますことに深く敬意を表しますとともに、本県障がい
福祉行政の推進につきまして、平素から御支援、御協力をいただき、心よりお礼を申し上
げます。

さて、福島県におきましては、平成25年4月から施行された「国等による障害者就労施設等からの物品等の
調達の推進等に関する法律」に基づき、「平成25年度福島県障がい者就労施設等物品等調達方針」を策定し、
調達目標額を20,845千円(平成24年度実績額18,950千円の約1割アップ)に設定いたしました。

この調達目標額の達成に向け今年度は、福島県授産事業振興会と協力して県の関係機関を対象とした試食会
や県庁内でのアンテナショップ等を開催し、障がい者就労施設の製品の味や品質等を理解していただき、県か
ら各施設への発注につながる取組を行いたいと考えております。

こうした取組みにより、障がい者の工賃向上及び一般就労への移行促進にも資することができるよう、全庁
一丸となって取組を進めていきたいと思ひますので、引き続き、皆様のお力添えをお願いいたします。
結びに、会員の皆様の御健勝を御祈念申し上げましてあいさつとさせていただきます。

第19回福島県授産事業振興会通常総会について

平成25年5月30日(木)に福島市民会館において、第19回福島県授産事業振興会通常総会が開催されました。総会には、会員101名(委任状64名含む)が出席し、菊地洋子副会長が司会を務め、三浦正一副会長の開会のことばで進行しました。

はじめに、高村トミ子会長よりあいさつがあり、東日本大震災・原発事故から2年余が過ぎたが、いまだに全国の事業所・団体などから授産品の販売支援をいただいていることに感謝の意が述べられました。次いで、来賓の古山幸一福島県保健福祉部障がい福祉課長(県保健福祉部長代理)、大川原公年福島県社会福祉協議会事務局長(県社協会長代理)から祝辞が述べられ、来賓紹介を行った後、関谷勝浩氏(共同作業所たいしん)を議長に選出して議事が進められ、いずれも原案のとおり可決承認されました。

また、役員改選が行われ、14年間にわたり授産事業の振興並びに事務局体制の整備・充実にご尽力されました高村トミ子会長が退任され、新たに三浦正一副会長が会長に選任されました。

本総会の提出議案及び新役員は次のとおりです。

議案第1号 平成24年度一般会計事業報告書及び収入支出決算書について

議案第2号 平成24年度特別会計事業報告書及び障害者就労支援事業所支援コーディネーター事業収入支出決算書について

議案第3号 平成24年度授産施設等震災復興支援事業収入支出決算書について

議案第4号 平成25年度一般会計事業計画書(案)及び収入支出予算書(案)について

議案第5号 平成25年度障害者就労支援事業所支援コーディネーター事業及び授産施設等震災復興支援事業計画書(案)について

議案第6号 平成25年度障害者就労支援事業所支援コーディネーター事業収入支出予算書(案)について

議案第7号 平成25年度授産施設等震災復興支援事業収入支出予算書(案)について

議案第8号 福島県授産事業振興会定款の一部改正(案)について

議案第9号 福島県授産事業振興会役員の改選について



(総会)



(総会)
高村会長
退任あいさつ



(総会)



●●● 福島県授産事業振興会役員 ●●●

任期 平成25年6月9日～平成27年6月8日（2年間）

	氏 名	所属・役職名		氏 名	所属・役職名
会 長	三 浦 正 一	NPO 法人ひろせ 理事長	理 事	渡 辺 実	青松苑 苑長
副会長	添 田 浩	福島県矢吹しらうめ荘 園長	〃	高 橋 鐵 平	郡山市緑豊園 園長
〃	菊 地 洋 子	NPO 法人真桜会桜の家 理事長	〃	木目沢 善 重	NPO 法人みんなのまーち 理事長
〃	村 田 純 子	県福祉作業所・事業所連絡協議会 会長 (NPO 法人ほっと悠 理事長)	〃	星 佳代子	障がい福祉サービス事業所コパン 主任
理 事	大川原 公 年	福島県社会福祉協議会 事務局長	〃	郡 信 子	自立研修所ピーンズ 所長
〃	小 室 雅 幸	福島県社協障がい児者福祉施設協議会 (福島縫製福祉センター 所長)	〃	佐 川 健 一	いわき学園 管理者
〃	堀 謙 治	福島県身体障がい者福祉協会 会長	〃	鈴 木 繁 生	のはら 管理者
〃	七 宮 弘	福島県手をつなぐ親の会連合会事務局長	〃	浅 倉 秀 雄	学識経験者
〃	村 上 実	福島県知的障害施設協会 会長 (あさかあすなろ荘 施設長)	監 事	佐 藤 俊 元	あだち共労育成園 園長
〃	吉 原 秀 一	福島県精神保健福祉会連合会つばさ会 副会長	〃	千 葉 正 年	ゆうゆうハウス 理事長
〃	高 田 薫	NPO 法人ひびきの会・ワークショップ ろんど 所長	〃	磯 部 俊 克	福祉サービス事業所かがやき 所長

新運営委員の紹介

平成25年度第1回福島県授産事業振興会・授産事業支援センター運営委員会が9月25日(水)福島市の福島県保健衛生合同庁舎において開催されました。

委員の任期満了により、新しく運営委員に委嘱された15名の方に三浦会長から一人ひとりに委嘱状が交付されました。

議題では、はじめに委員長・副委員長を選任し、次いで、専門部会の構成と各部会長の選任を行いました。事業計画については、「スパリゾートハワイアンズ」(いわき市)での展示即売会の開催、「障害者優先調達推進法」の実効ある推進を図るために、県庁売店内での展示販売会の開催、また、県内6圏域内での試食会の実施、新製品(商品)開発コンクールの実施などについて説明があり意見交換が行われました。

新しく運営委員に委嘱された方は次のとおりです。 任期 平成25年9月1日～平成27年8月31日（2年間）

部会名	県 北	県中・県南	会 津	浜
販売促進	★加藤 敏子 (ワークセンター歩) 穴戸 綾子 (なのはなの家)	菅野 和典 (でんでんむし) 山寺 孝一 (ライジングサン)	大栗 真弓 (さぎそうの家)	志賀 隆寛 (いわき学園)
広 報	平 由紀子 (あだち共労育成園)	○木目沢秀吾 (NPO 法人みんなの まーち)	★穴沢 明美 (共働作業所ピーターパン)	大竹 恵子 (なこそ授産所)
商品開発	★渡辺 景子 (太陽学園) 佐藤貴恵子 (共同作業所ぽけっと)	市川 堅 (工房トマトハウス)	◎小椋 厚子 (ゆうゆうハウス)	北畑 尚子 (自立研修所ピーンズ)

注 ◎は委員長、○は副委員長、★は部会長



(三浦会長あいさつ)



(運営委員会)



(委嘱状交付)

授産施設新製品(商品)開発コンクール・ 授産施設関係職員等研修会

平成24年度授産施設新製品(商品)開発コンクール及び授産施設関係職員等研修会が平成25年2月2日～3日の両日にわたり「飯坂ホテル聚楽」(福島市飯坂町)で開催されました。

コンクールには、22施設から55点の応募があり、次の商品が入賞しました。

- | | | |
|-----------|---|--------------------------|
| ●金 | 賞 | かぼちゃプリン【こころん工房】 |
| ●銀 | 賞 | 笹やか地鶏の半々熟卵【笹森の郷】 |
| ●銅 | 賞 | 大型トイレットペーパー入れ【共同作業所ぽけっと】 |
| ●福島民報社賞 | | プルボン(小)【ファームもみの木】 |
| ●福島民友新聞社賞 | | かえでの一閑張り【川俣町セルプかえで】 |



(審査会)



(審査風景)



(金賞入賞製品)

研修会は、県内の施設・関係者93名が参加して開催されました。

2日は、福島県障がい福祉課主幹 熊谷光彦様より「障害者優先調達推進法」についての行政説明、柳沼佐千子様(リ・オルグ代表)より「インプレッショントークトレーニング」のセミナーが行われました。

3日は、利用者の工賃アップを目指して取り組んだ「便利屋事業」について、実施した4施設と事業展開に支援・指導していただいた、山口県中小企業診断協会のアドバイザーの皆さんによるシンポジウムを行い、事業の成果報告と今後の推進方策等について話し合われました。また、シンポジウムに先立ち、山口県の「NPO法人青空」山田孝之理事長様より“至福のお届け：あおぞらの便利屋事業への取り組み”と題して基調講演をいただきました。



〈シンポジウムの参加施設〉

- ワークショップろんど
- 共働作業所にんじん舎
- 共同作業所たいしん
- 自立サポートセンター桜

※便利屋事業とは、地域の皆さんの困ったことを解決するため、自宅周辺や空き地の草刈り、植木の剪定、清掃・室内の片付け、網戸・障子の張り替え、エアコン洗浄など依頼を受けて訪問サービスを行う事業です。併せて、高齢者、一人暮らしなど要援護者の見守りなども行います。

展示即売会・アンテナショップ

◆会津でミニアンテナショップを開催しました。

「アピタ会津若松店」のご協力で7月19日から21日までの3日間の期間限定で“福祉の店会津”と評して販売会を行いました。会津での大規模な販売会は初めてで県内から31施設が参加し、予想を上回る大盛況でした。



(アピタ店内での販売風景 1)



(アピタ店内での販売風景 2)



(アピタ店内での販売風景 3)

◆福島銀行で販売会を開催しました。

共同受注で大変お世話になっている福島銀行様から販売支援のために会場の提供を受けて、平成24年12月23日・24日の2日間初めて銀行内で展示即売会を開催いたしました。クリスマスシーズンのため、会場内では太陽学園の皆さんによるハンドベル演奏も披露され来場者を喜ばせてくれました。また、寒い時期であったため、外では「工房ひろせ」の焼き芋、「ワークセンター麦」の温かいうどんも販売され飛ぶように売れて大変好評でした。38施設というかつてないほど多くの施設から出品があり福島銀行様のご厚意に応えることができました。



(オープン前陳列状況)



(来場者で賑わう会場)



(来場者も飛入り参加のハンドベル演奏)

◆アンテナショップ「福祉の店いわき」が移転しました。

初めてアンテナショップを開設し16年間お世話になりました、いわき市の「ヨークベニマル谷川瀬店」(当時は藤越)が改築のため、販売会場を移転しました。

移転先の「鹿島ショッピングセンターエブリア」は市内中心部に位置し、いわき市内で最大クラスの小売施設です。会場となる鹿島SS関係者の障がい者福祉への深いご理解と温かいご支援を得て開設することができました。



(開店記念式典)



(開店後の賑わい)



(大盛況の初日)

施

設

紹

介

就労継続支援B型事業所 福祉ハウスボネール

(伊達市)



みなさんこんにちは、就労継続支援B型事業所「福祉ハウスボネール」です。ボネールとはフランス語で「しあわせ」という意味です。平成6年に精神障がい者小規模作業所として立ち上げた時メンバーが考えた名前です。障がいを持つ方々が「友達と語り合いたい」「ゆっくり安心できるスペースが欲しい」「自分のペースで仕事をしたい」などさまざまな想いがこめられた“ボネール”なのです。平成18年7月にNPO法人格を取得、翌年19年7月に就労継続支援B型事業所となりました。作業の内容としては刺し子コースター、牛乳パックを使ったスツール、ビーズの指輪やストラップなど自主製品の制作、施設外就労としてクロネコヤマトメール便の配達、地元保原にあるふれあいセンターの清掃にも取り組んでいます。平成20年6月には当事者の働く場、地域との交流の場を目的に食堂「楽らく亭」を開店。ヘルシーな日替わり定食は地域での評価も得ています。みなさまのご来店お待ちしております。また春の〈ボネールまつり〉と秋の〈チャリティーコンサート〉を開き地域の皆さんの理解と共感を広げる取り組みも行っています。メンバー1人1人がしあわせな気持ちでいられるような明るく楽しいボネールを目指してこれからも支援していきたいと思ひます。(25. 4. 1 入会)



NPO 法人 ウッドピアはなわ

(塙 町)



(彼岸花用の竹串作り)

NPO 法人ウッドピアはなわは、障がい者に対して地域生活を可能とする福祉サービスを行うとともに、他の非営利団体の支援と連携をしてより多くの住民の幸福に寄与する事を目的に平成17年7月に設立されました。現在は塙町内で主に精神障がい者を対象とした就労継続支援B型事業所と共同生活援助事業所を運営しています。

就労継続支援B型事業の主な活動内容は、自主製品の製造（布製品・陶器・クラフト）リサイクル回収、内職作業（袋折りや菓子詰め等）牛のお世話やお寿司屋さんでの清掃等の施設外就労の外、自主製品の販売推進を目的として事業所の敷

地で毎月10日に青空市を開催しています。

自主製品の中で、特に力を入れているのが彼岸花（造花）製作です。年間約6万本を利用者・職員ボランティアさんの協力を得ながら全て手作りで行っています。

ウッドピアはなわに通所している利用者さんはとても明るく、元気で一所懸命作業に取り組んでおります。

機会がありましたら、お気軽にお立ち寄り下さい。(24. 7. 20入会)



(青空市 風景)



(陶器の窯出し)



(袋折り作業)

就労支援継続B型事業所 食工房ひもろぎ

(白河市)



皆様こんにちは。就労支援継続B型事業所「食工房ひもろぎ」です。当事業所は、平成24年4月に開所しました。お弁当作り、内職作業などを通じて働く訓練を行うと共に、仲間と共に働く喜びを知る、自身の可能性を見出すなど、充実した生活を送れるようにスタッフもサポートしています。

お弁当作りでは、下ごしらえ、調理、盛り付け、洗浄、片付けと工程をいくつかに分けて行っています。野菜中心のメニューを毎日心を込めて一生懸命

作っています。

内職作業では、地元の企業から枕カバーを伸ばす仕事をいただいています。丁寧に行うことを考えながら頑張っています。その他に、手作りのシュシュなどを制作しています。

1人1人に合った作業を見つけ、自分のペース仕事をしながら、毎日が充実したものになるように利用者もスタッフも頑張っています!! (24. 11. 26入会)



就労支援センター 未来工房

(いわき市)



就労支援センター未来工房は、多くの方々のご支援をうけ、平成22年よりいわき市内で就労継続支援B型事業所として活動しています。

活動内容は、農業部門と食品加工部門（宅配弁当「未来キッチン」）の2つにわかれています。農業部門では、市内にある農園に毎日通いぶどう等の果樹およびその他野菜の栽培、加工、販売をおこなっています。未来キッ

チンでは、心温まる家庭の味をモットーとした手作りの宅配弁当およびジャム等の加工品の製造、加工、販売をおこなっています。明るくあたたかい雰囲気のなか、みんな生き生きと作業しています。

授産事業振興会の販売会には、未来キッチンで製造した季節の野菜や果物を丁寧に煮詰めてつくる手作りジャムのほか、そのジャムを使用したパウンドケーキなどを出品しています。販売会に足をお運びの際には、ぜひ一度手にとってご覧ください。これらの商品は、未来キッチン店頭ほかメールでの注文も受け付けております。

今後も、一人ひとりが温かく支え合って働ける未来工房を目指して、利用者のみんなとともにがんばっていきます。(25. 4. 1入会)



就労継続B型事業所 だんでらいおん

(平田村)



NPO 法人がんばろう会は、平成21年5月に平田村手をつなぐ親の会が中心となり平田村で初めてのNPO法人立ち上げとなりました。生まれ育った平田村で、当たり前に分らしく活動する居場所作りが大きな目的でした。そして「働きたい、自分も社会の一員として役に立ちたい」そんなみんなの想いを基盤に就労継続B型事業所「だんでらいおん」が活動を開始したのが平成22年4月です。主な作業内容はパン、お菓子作り・手工芸・移動販売・農作業など個人の持ち味を生かした仕事をしながら、就労に向け準備をしています。私たちのモットーは、地域と共にです。地域の人に美味しいパンを届けたい。地域の人たちの役に立ちたい。そんな想いで平成25年4月より指定特定相談支援事業「あいくる」が活動を開始致しました。この度、授産振興会に入会させていただき、販路の拡大や他事業所の方々の交流などにより活動の幅も広げることができましたことを感謝申し上げますとともに今後共よろしく願い申し上げます。私たちの事業所は溢れんばかりの笑顔でいっぱいです。どうぞみなさん遊びにいらしてください。国道49号線「道の駅ひらた」から郡山方面2キロ先にあります。(24.10.1入会)



就労継続支援B型事業所 ほほえみの間

(郡山市)



(ほほえみの間 作業風景)

こんにちは、就労継続支援B型事業所「ほほえみの間」です。当施設は、平成24年6月、様々な方の支援とご支持のもと、郡山市水門町に開設しました。主な作業内容は、クッキーの生地づくり、クッキーの成形、袋詰め、ラッピング、納品および販売となっています。

作業の中で、それぞれの利用者さんにできることを見つけていくことが大切だと思います。自分にできる作業を継続しておこなっていくことで、仕事に対して「できる」という自信を持っていただくことを第1の目標にしています。

自信がついてきたら、「できることだけをやっていては、成長できない」という考えのもと、少し難しいと思われる作業にもチャレンジしていただきます。そうすることで、少しでもできることを増やしていく、これを第2の目標にしています。

みんなで一生懸命に作ったクッキーはどれも絶品です！特に、アニマルクッキー、ちょこちっぷクッキー、ミックスクッキーは、人気のトップ3です。お友達への贈り物や、会議でのお茶のお供などにいかがですか？フェイスブックページも作成しておりますので、ぜひご覧ください。(25.7.1入会)



(ひつじ)



(ひよこ)

就労継続支援 A 型事業所 結の郷

(郡山市)



就労継続支援 A 型事業所結の郷は、精神障害者、知的障害者、身体障害者の自立の促進として、就労支援を行い、それに付随して地域との交流を目的とする事業を行い、家族の負担軽減を図り、一人一人が地域で安心して快適な生活ができるような地域ぐるみの福祉に寄与することを目的として、開設いたしました。

主な作業として、野菜の栽培をしています。湖南町という高原で今年は、大根、じゃがいも、絹さや、スナックエンドウ、いんげん、おくら、ゴーヤ、かぼちゃ、トマト、きゅうりなどの栽培を致しました。

冬は降雪のため、室内で軽作業を行っています。

農作業は色々大変なところもありますが、収穫の楽しみも感じて作業を行っています。

これからも皆さんの意見や要望を取り入れ、みなさんに親しまれる作業所にしていきたいと思っております。宜しくお願いします。

(25. 7. 24入会)



就労継続支援 A 型 笹森の郷

(福島市)



こんにちは。就労継続支援 A 型の「笹森の郷」です。当施設は福島市松川町水原にあり、二本松市との境に位置し、福島市の南端で自然豊かな場所でみんな楽しく仕事をしております。作業内容は卵の採取に 4 名、卵の洗卵・



選別に 3 名、チラシ折りに 5 名、厨房班に 1 名、合計 13 名が自立に向かい訓練を行っています。そのほかに農場では米、野菜、果物などが試験的に生産されております。将来は地域の農地を使い、南茶和ブランドとして販売を進めて行ければと考えております。笹森の郷の由来はテレビ塔（笹森山）があり、その郷が南沢地区、



そのことから、笹の繁殖を進めながら地場産業を興す目的で施設名を笹森の郷としました。組織も NPO 法人南茶和（地名の南沢をアレンジ）とし、地域の人達が会員で福祉貢献と環境を守りながら地域興しを願い、現在に至っております。農場のアンテナショップを計画中！南茶和を地域の方々に理解、見守り、参加を進めて行きたいと考えております。どうぞこれからも笹森の郷を宜しくお願い致します。(24.7.26入会)



ご寄付ありがとうございました。

当会が本年度実施した「経営意識向上研修会」の講師を務めていただいた、阿部憲夫様と佐藤直美様から授産事業の振興のためにと今年も寄付金をいただきました。この研修会に参加した施設は、工賃がアップしたというデータがあり、施設長さんはじめリーダーの皆さんの意識向上が見られます。また、講師の眠らせない魔術が結果を生み出す所以（ゆえん）かと思います。両先生の温かい心遣いに心より感謝申し上げます。

情報コーナー

◎福島銀行展示即売会の開催について

福島銀行様のご支援とご協力により、昨年度に引き続き授産製品の展示即売会を行います。今回は、福島銀行様のご配慮によりまして、会期を3日間に延長して開催します。

- ・日 時／平成25年12月13日(金)～15日(日) 10時～16時（最終日15時）
- ・場 所／福島銀行本店（福島市万世町2番5号）

※施設の利用者さんによる、ハンドベル演奏・ギター演奏も予定しております。

◎平成25年度授産施設新製品（商品）開発コンクール及び授産施設関係職員等研修会について

平成26年2月1日(土)・2日(日)に飯坂ホテル聚楽（福島市飯坂町）において開催します。コンクールの応募と研修会の参加をお待ちしております。



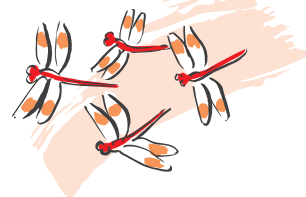
事務局通信

◇経営相談員が25年度は4名体制で施設の個別相談に当たっておりますので、施設経営等に関して相談の希望があれば事務局まで連絡してください。なお、相談員の方々は次のとおりです。

- ・菅野 覚 ・木野 禎子 ・田部 良夫 ・小野 晴世

◇震災復興支援員に異動があり、次のとおり配置になりましたのでよろしくお願いいたします。

- ・前林 忍（県中担当25. 5. 21付け）
- ・佐藤 光男（相双担当25. 5. 1付け）



編集後記

振興会の2代目会長として、14年間務められた高村トミ子会長が退任しました。飾らない人柄で人望も厚く面倒見の良さから誰からも好かれ県内外からファンも多く、退任を惜しむ声も聞かれます。任期中、困難な直面と対峙したことがありましたが、「なんとかなっぺ。がんばっぺ。」と明るく前向きな姿勢で乗り越えてくれました。また、東日本大震災後、県内外の皆様からご支援を頂いたことにいつも感謝の意を述べていました。

今後は一会員として授産事業の進展にがんばっから。と力強いお言葉をいただきました。益々ご健勝にいつまでも高村節に会えることを祈っております。

事務局（S）